

## H26年 第1回 自立支援協議会 議事録

日時 平成26年7月16日 午後6時20分から

場所 利根町役場 5-A 会議室

出席者 16名

計画相談支援事業の進捗状況について

平成26年7, 8, 9, 10月相談支援開始（新規申請）48件

障害福祉サービス利用者 93名（平成26年10月末日現在）

計画相談支援支給決定者 76名

### 1) 利根町障害者基本計画及び障害福祉計画策定に関わる助言等について

#### ○事務局より説明

- ・ニーズ調査の必要性及び自立支援協議会の役割について
- ・計画策定のスケジュールについて

#### ○計画の策定に際して

- ・これまでの計画書は現状を書き連ねるのみにとどまっているが、今回の計画書では、さらに発展させて、今後の課題を提示し、町が抱える問題と向きえるような計画書にしてみてもいいのではないかと。
- ・障害者とその家族等の意見だけでなく、受け入れ側である事業所の意見も反映させることで、より町の現状と今後の課題を計画に反映できるのではないかと。
- ・福祉避難所の設置や障害者防災マニュアルの作成など、先進的に行っている施策は計画書の中でもアピールしたほうがいいのではないかと。

#### ○上記を受けて、各委員より寄せられた主な意見

##### ①情報格差について

- ・成年後見人制度、権利擁護制度について、現在は障害者の利用が大変少ないが、これまで地域ケア会議などで取り上げられてきた案件においては、問題解決に当該制度の利用が重要になると思われるケースも多々見受けられ、潜在的なニーズは多いと考えられる。障害福祉制度の利用については、潜在的なニーズはあっても、障害者本人が支援や情報を求めることが困難な場合も多く、また、その両親等も高齢化が進み、情報を入手することがますます困難になっている現状がある。取り残されているものに対する支援の充実が求められる。
- ・介護者の高齢化が進む中で出張サービスなどは展開できないか。
- ・情報を求める先が明確ではなく、相談に行きづらいのではないかと。また支援する立場である事業所もどこに情報があるのか分からず、効率的な支援ができないことがある。包括支援センター等がワンスト

ップ窓口となり、各所に問題を振り分けるなどの機能を担うことはできないか。

## ②相談支援について

- ・利用する施設は障害者やその家族が自由に選択できるようになっているが、利用者自らが施設の特性などを理解し、判断をすることは困難なため、相談支援専門員が重要な役割となる。さらに人数が増えれば、より障害者やその家族は希望に即した支援を受けることができるのではないか。
- ・ケアマネジャーには事例検討の場があるが、相談支援専門員にはそういう場がまだない。自立支援協議会において相談支援関連の部会を立ち上げてはどうか。部会には、自立支援協議会の委員ではない人にも参加してもらい、裾野を広げていくといいのではないか。
- ・ケアマネジャーの持っている技術が相談支援にも活かせると思われるため、ケアマネジャーの会に相談支援専門員が参加できるようにする、もしくは障害関連の部会をつくるなどするといいいのではないか。
- ・介護者も障害者も高齢化の時代であり、介護保険を扱っているケアマネジャーが相談支援専門員となり、障害福祉を扱えると都合がいい。自ら発信することが困難な障害者やその介護者の問題を拾い上げるのにも重要な役割となりえると思われる。
- ・ケアマネジャーの集まる会議の場でも相談支援専門員の必要性などについてアピールし、資格取得者の増加につなげていきたい。

## ③支援技術の向上と人材育成について

- ・支援を行う立場として知識を向上し、より問題解決につなげられるような技術の習得に努めたい。
- ・問題を抱える本人やその介護者と関わりを持とうとしても、支援を拒否されることがあり、介入が難しいことがある。そういった困難なケースを解決できる技術を身につけたい。定例の事例検討会などで勉強を続けていきたい。支援技術を身につける学習の場がもっと欲しい。
- ・高齢者向けにはふれあいサロンなどの交流の場があるが、障害者にもよりどころにできるような場があるといいのではないか。地域のボランティアの活躍の場の拡大にも繋がるのではないか。
- ・地域のボランティアも高齢化している中で、若手をもっと養成できる機会がほしい。
- ・学校を通して募集をかけたボランティア活動に参加したことがきっかけで、その後もボランティア活動を続けてくれる子は多く見受けられる。そういった募集の機会を増やすことで若年層へのアプローチを図れないか。
- ・特別支援学校と関わることはあっても、特別支援学級や一般の学校との関わりの方はあまりない。若年層のボランティアの必要性を先生方にもっと知ってもらうためにも、発達障害などの話題をきっかけとして特別支援学校以外の学校とも関わる機会があるといいのではないか。

## ④その他

- ・交通の便が悪いことについて、これまでも様々な場で問題視されてきたが、そろそろ具体的な改善方法を提示できないか。

## 2) 前回の懸案事項について

・近隣の市町村（龍ヶ崎市、牛久市、稲敷市、取手市）では、社会福祉協議会で相談支援事業所を立ち上げている。利根町社会福祉協議会で相談支援事業を立ち上げてはどうか？検討してほしい。また、町からの財政的支援はあるのか？

⇒平成27年度6月頃、社協でも相談支援事業所を立ち上げられるよう、現在調整中。財政的支援については、詳細が固まってきてから、企画財政課と協議を行う予定。

・福祉サービス事業所の誘致等の状況はどうか？何かいい方法はあるのか？近隣だけではなく、全国的にいい例があるか調べてほしい。

⇒参入の申し入れがあれば支援したい。誘致については、アンケート結果をもとにニーズを把握してから勘案する。ニーズがあれば、利用者の人数や採算面、他事業所との兼ね合いなどを調査した上で誘致を行いたいと考えている。

## 3) その他

・防災部会より報告

利根町地域防災計画の修正案に対して、障害者関連の内容も含めるよう総務課に意見書を提出していたが、要求が通った。予算措置に関しては今後詰めていく予定。

・難病患者についてアンケートを送付することはできないか？保健所の協力は仰げないか？

⇒保健所に問い合わせを行ったが、患者の名簿は開示できないとのこと。

また、保健所が難病患者に一斉に発送する通知に併せて同封してもらうことは無理かとの問い合わせも行ったが、今年は時期的な問題から難しいとの回答があった。

・事務局より報告

「フレンドリー利根」が解散するが、龍ヶ崎の地方家族会等がその後の受け皿となることについて広報に掲載した。

## 次回の懸案事項

計画の原案が出来上がっている予定。それをもとに協議を行う。

相談部会について進展があれば報告してもらう。この件については佐藤さんを中心とする。